

福岡教区の皆様

令和 8 年熊本地震から一か月を迎えて

＋主の平和

2026 年 7 月 28 日 16 時 27 分に発生した令和 8 年熊本地震から、今日で一か月が経過しました。亡くなられた方々をはじめ、様々な被害を受けた人々のために祈りいたします。

福岡教区として、カリタスジャパンや ERST のご協力を得て、支援活動を整えてきました。皆様のご協力に感謝いたします。教区内からも、5 名の司祭が現地のボランティア活動に参加し、八代教会の皆さんも物資の配布を行うなど、様々な形で熊本地震後からの復興支援に携わってくださり、心から感謝申し上げます。

被災地の状況は日々刻々と変化しています。現時点の状況と、今後の教区の取り組みについてご報告いたします。

教区内の教会のうち、地震によって壁や床にひびが入るなどの被害を受けた教会は、手取教会、八代教会、水俣教会、帯山教会です。特に被害の大きかった八代教会では、先日、断水が解消され、主任司祭が再び居住できるようになりました。

現在、8 月 10 日に発表した「福岡教区の今後の活動方針」の第 1 項「八代教会と、地域との関わり」に基づき、地域に開かれた教会として活動を始めるための準備を進めています。震災前からその地域に在り、震災後もそこに在り続ける教会として、地域との関わりを大切にしながら、支援を必要としている方々に寄り添うことができたいと思います。

また、教区として「熊本サポートセンター」を設置するための準備も進めています。ボランティア活動のコーディネートや被災地域のニーズ調査などを担っていただく予定です。準備が整いましたら、改めて皆様にお知らせいたします。

令和 8 年熊本地震から一か月が経過しましたが、今なお避難生活を続けておられる方々が多くいらっしゃいます。また、世界に目を向けますと、ネパールでも土石流による大きな被害が生じています。8 月 30 日のミサの中で、被害者の皆さんと心を合わせて、お祈りを捧げていただきますようお願いいたします。ミサの共同祈願でその意向を加えるか、共同祈願の最後とともに次の祈りを唱えていただけましたら幸いです。

災害被災者のための祈り

父である神よ、
すべての人に限りないいつくしみを注いでくださるあなたに、
希望と信頼をこめて祈ります。
災害によって、苦しい生活を送り、
不安な日々を過ごす人々の心を照らし、
希望を失うことがないように支えてください。
また、亡くなられた人々には、永遠の安らぎをお与えください。
すべての人の苦しみを担われたキリストが
いつもともにいてくださることを、
祈りと行動によってあかしできますように。
わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

(2021年2月16日 日本カトリック司教協議会認可)

今、世界中で苦しんでいる人々、悲しみのうちにある人々に心を寄せ、必要な支援が一人ひとりに届きますように、そして一日も早く平穏な生活を取り戻すことができますように、心を合わせてともに祈りましょう。

感謝と祈りのうちに

2026年8月28日



ヨゼフ アベイヤ
福岡教区司教

